

昨年8月より、第4圃場Dハウスで有機肥料施用試験を行ってまいりましたが、4月末に栽培を終了しました。3月10日の地球にやさしい見学会②以降の情報をさらにアップデートし、今月号の農場通信で報告します！！

目的

- ・化学肥料削減（※ココバッグ栽培比、窒素量30%減）
- ・肥料高騰対策
- ・食味向上

試験方法

プラム型トマトと中玉トマトで収量、生育、糖度を毎月調査

【有機肥料施用区】

有機質培養土を使用し、有機肥料を中心とした肥料設計（一部化学肥料使用）

【ココバッグ慣行区】

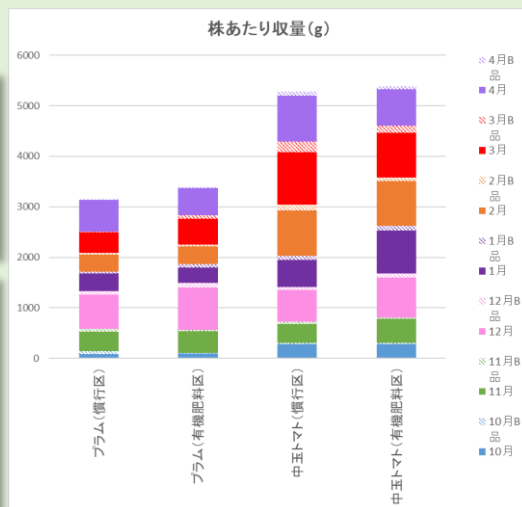
給液管理：TF濃縮とまとS処方、EC1.0～2.0mS/cm（時期により調整）



結果

品種名	糖度(5玉平均)							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	平均
プラム(慣行区)	6.1	5.4	6.4	7.0	8.0	8.1	7.7	7.0
プラム(有機肥料区)	6.2	5.5	6.3	7.4	8.1	8.2	8.1	6.3
中玉トマト(慣行区)	6.9	6.4	5.6	5.0	5.7	6.5	6.3	6.1
中玉トマト(有機肥料区)	6.8	7.0	5.7	5.2	6.5	6.9	6.9	6.2

品種名	樹長(cm・3株平均)							開花段数(3株平均)						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラム(慣行区)	202	332	453	520	600	695	798	4.0	7.7	11.0	13.0	16.3	18.7	21.3
プラム(有機肥料区)	175	305	442	543	653	717	840	3.7	8.0	11.3	13.0	16.7	19.0	21.3
中玉トマト(慣行区)	140	242	345	392	477	527	610	3.3	7.0	11.0	13.5	16.3	19.7	22.7
中玉トマト(有機肥料区)	133	233	308	370	457	503	577	3.7	7.0	11.0	13.7	17.3	19.7	22.7



- ・生育調査の結果、生育状況に差はなく、糖度も大きな差はなし
- ・収量については、日当たりの違いも考えられるため、精査が必要であるが、有機肥料施用区の方が果実数が多く、わずかに収量も増えた
- ・食味について
有機肥料施用区の方が、ココバッグ慣行区よりおいしいとの声を農場へお越しいただいたお客様より多くいただく
→L-グルタミン酸含有量の分析を実施（※L-グルタミン酸：うま味成分）
⇒有機肥料施用区の方が慣行区より、L-グルタミン酸含有量が有意に高かった